

生涯学習に関する平群町民意識実態調査報告

— 明日の平群の生涯学習システムの構築をめざして —

高 見 茂*

A Survey Report on the Awareness of the Inhabitants
of Heguri-Cho to the Life Learning

Shigeru TAKAMI

要 旨

本調査は、平群町における「地域的生涯学習体系」構築の上で不可欠となる具体的諸方策を企画・立案するための基礎調査として実施されたものである。また調査を通じて、町民への「生涯学習概念」の普及・啓発や、町民の「生涯学習需要」の喚起を促すことも目的とした。したがって本調査は、生涯学習に関する単なる実態調査（＝行政調査）に留まらず、同時多面的な役割を担う調査であったと言える。

調査対象者は、平群町在住の成人男女1000人で、東西南北の4小学校区ごとに、平成6年2月現在の選挙人名簿を基に250名を無作為で抽出した。調査方法は郵送法による。調査項目は、フェイスシートを除き14項目からなり、回収率は68.4%であった。また回収データの統計処理は、奈良大学情報処理センターCONVEX3420を利用し、同機のアプリケーションソフトであるSPSS統計パッケージを使用した。

I 調査の概要

(1) 調査のねらい・目的

21世紀に向けて豊かで活力ある地域社会を築いていくためには、地域住民が生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会において適切に評価されるような「地域的生涯学習体系」が構築されなければならない。こうした課題は、①学校教育への過度の依存の是正、②社会の成熟化に伴う学習ニーズへの対応、③高齢化社会の対応、④科学技術の高度化・情報化、といった諸事情から生じたと言える。「地域的生涯学習体系」の構築のためには、地方教育行政機関はその推進の中核的役割を担わなければならない。そのためそ

の任務として、①潜在的学習需要を顕在化し、具体的な学習行動に結び付けること、②関係機関の連携を図ること、③学習成果を生かす機会・場を確保すること、などが求められている。

本調査は、こうした政策課題に対応し、平群町における「地域的生涯学習体系」構築の上で、不可欠となる具体的諸方策を企画・立案するための基礎調査として実施されたものである。また調査を通じて、町民への「生涯学習概念」の普及・啓発や、町民の「生涯学習需要」の喚起を促すことも目的としている。したがって本調査は、生涯学習に関する単なる実態調査（＝行政調査）に留まらず、同時多面的な役割を担う調査であったと言える。

(2) 調査対象・方法

① 対象と方法

調査対象者は、平群町在住の成人男女1000名で、東西南北の4小学校区ごとに、平成6年2月現在の選挙人名簿を基に250名を抽出した。抽出方法は、各地区とも年齢層を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代に区分し、各50名づつを無作為で抽出した。サンプリングに当たっては、平群町社会教育課長 藤田晴久、同課長補佐 岩津美津恵（現議会事務局長補佐）、同課員 今田良弘、吉田八十二、西田定子、井戸幸生、榎 勝也の各氏に作業を担当して頂いた。調査票方法は郵送法によった。調査票を送るに先だて、調査の趣旨を徹底し調査対象者の理解を得るため、平成6年2月14日（月）に「アンケートについてのお願い」を郵送した。調査票は、同年2月19日（土）に郵送し、回収期間は2月21日（月）から28日（月）までとした。郵送・回収作業も平群町社会教育課スタッフに担当して頂いた。整理点検作業の後、同年3月7日（火）に奈良大学教育行財政学研究室に提出された。

② 回収結果と統計処理

平成6年3月18日現在、684名の調査対象者から回答が寄せられ、回収率は68.4%であった。回答者の性別、年齢別、小学校区別（以下居住地域別）、地理的条件別（以下居住地条件別）属性は表-1の概要となっている。回収調査票の統計処理は、奈良大学情報処理センター CONVEX3420を利用し、同機のアプリケーションソフトであるSPSS統計パッケージを使用した。なお、同センタースタッフの今泉、湊、横田の各先生方にご教示を賜った。また調査票のコーディング、データの入力作業については、本学学生諸君の協力を得た。この補助作業を通じ、彼らにデータ処理方法、コンピュータ操作の基本的教育・訓練を行うことができた。したがって本調査は教育的意識をも内包したものであったと言える。

表-1 全体集計から見た回答者の属性

① 性別

男	270人	39.5%
女	406人	59.4%
非該当	1人	0.1%
無答	7人	1.0%

② 年齢別

20歳代	89人	13.0%
30歳代	132人	19.3%
40歳代	152人	22.2%
50歳代	155人	22.7%
60歳代	149人	21.8%
無答	7人	1.0%

③ 居住地域別

東部	174人	25.4%
西部	138人	20.2%
南部	172人	25.1%
北部	183人	26.8%
無答	17人	2.5%

④ 居住地条件別

山間部	116人	17.0%
平野部	488人	71.3%
不明	1人	0.1%
非該当	80人	11.7%

(2) 調査項目

調査票は表-2に見るように15項目からなっている。①は、町民の生涯学習の必要性を、また②～⑧では、生涯学習経験・方法・目的を聞いてみた。⑨～⑪は今後の生涯学習需要の把握をねらいとしたものである。そして⑫、⑬は、今後整備すべき生涯学習条件について聞いてみた。⑭は現有の生涯学習資源（生涯学習施設・設備）の利用状況についての設問である。⑮以下はフェイスシートで、性別、年齢、居住地域、居住年数、家族状況、自由時間、職業、休日、勤務地について聞いてみた。特に本調査の特徴は、平群町における今後の生涯学習需要の動向を把握するねらいから、②～⑧と⑨～⑪については、設問項目をできるだけ対応させることにした。

表-2 調査項目

- ① 生涯学習の必要性
- ② 1年以内の生涯学習経験の有無
- ③ 学習経験のない理由
- ④ 具体的な生涯学習経験
- ⑤ 学習方法
- ⑥ 学習に取り組んだ理由
- ⑦ 学習目的
- ⑧ 学習の阻害要因
- ⑨ 新たな学習意欲
- ⑩ 具体的な新規学習需要
- ⑪ 学習程度の希望
- ⑫ 学習のつごうにより時間・曜日
- ⑬ 生涯学習に関して平群町に望むこと
- ⑭ 平群町の施設利用・認知状況
- ⑮ フェイスシート

II 質問内容と回答結果

調査項目にしたがって、以下に質問概要と回答結果について簡単に示す。

(1) 生涯学習の必要性

本設問では、生涯学習を「生涯にわたって学び続けること」と定義し、生涯学習の必要性について聞いてみた。回答内容は、「その通りだと思う」が81.9%（560人）、「そうは思わない」が8.3%（57人）、「よく分からない」が8.2%（56人）、無答1.6%（11人）であった。また本調査では、性別、年齢別、居住地域別、居住地条件別の各クロス分析も同時に行った。性別では、肯定的回答（その通りだと思う）についてはほとんど差がなかったものの（男性81.9%、女性82.0%）、否定的回答（そうは思わない）は明確な男女差が見られた（男性11.9%、女性5.9%）。

年齢別に見た場合は、表-3に見るように30歳代が最も肯定的な回答を寄せており、40歳代、50歳代、60歳代と順次肯定的回答は漸減する。最も中心的な生涯学習対象世代である60歳代の肯定的回答率が、無答を除き最も低かったのは意外な結果であった。否定的回答率と「よく分からない」という回答率の合計が最も高くなっている点に鑑みれば、この世代に対する生涯学習の意義・概念・目的等についての行政側のより一層の啓発・普及活動が期待される。

表-3 年齢別に見た「生涯学習」の必要性

上段は実数、下段は%

	無 答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
無 答		2 2.2	1 0.8	3 2.0	2 1.3	3 2.0
その通りだと思う	5 71.4	71 79.8	118 89.4	125 82.2	126 81.3	115 77.2
そう思わない	1 14.3	7 7.9	5 3.8	13 8.6	15 9.7	16 10.7
よくわからない	1 14.3	9 10.1	8 6.1	11 7.2	12 7.7	15 10.1

次に居住地域別に見てみよう。表-4に見るように肯定的回答率については、「西部地区」が最も低くなっている。「西部地区」の地域特性をフェイスシートから読みとってみると、高齢者は他地域よりもやや少ない傾向が見られた（60歳代が17.4%）。したがって上記のような年齢別クロスから指摘されたような影響はあまり大きくないと考えられよう。他の地域特性としては、この地域は「山間部」で、「居住年数」が20年以上の住民が8割近くを占め（78.3%）、「家族構成」は3世代家族の比率が最も高い（42.8%）地域であると思われる。さらに「職業」も「農林漁業」従事者が多く、自由時間もさほど多くない傾向も見られる。ゆえに西部地区に特徴的に見られるこうした回答率の主たる規定因子は、「年齢」ではなく、地区住民の職業条件であろうと推測される。

表-4 居住地域別に見た「生涯学習」の必要性

	上段は実数、下段は%				
	無 答	東 部	西 部	南 部	北 部
無 答	2 11.8	2 1.1	4 2.9		3 1.6
その通りだと思う	10 58.8	151 86.8	98 71.0	148 86.0	153 83.6
そうは思わない	2 11.8	15 8.6	19 13.8	10 5.8	11 6.0
よくわからない	3 17.6	6 3.4	17 12.3	14 8.1	16 8.7

最後に居住地条件別に見てみよう。肯定的回答率は、「平野部」が85.2%、「山間部」が68.4%となっており、両者の差はかなり大きい。また否定的回答率は前者が7.6%、後者が12%となっている。「山間部」の地域特性が「職業」、「家族構成」、「居住年数」等を類型枠としたクロス分析結果と類似した結果が見られる。とりわけ「よくわからない」との回答が「山間部」に16.2%も見られることに注意しなければならず、行政側のより一層の生涯学習概念の普及・啓発活動が肝要となろう。

(2) 1年以内の生涯学習の経験の有無

次にQ2で過去1年以内の生涯学習経験について尋ねてみた。全体集計では「経験あり」が56.4%、「経験なし」が43.3%となっていた。性別に見た場合、男性の学習経験が47.8%であるのに対して、女性の側は62.3%となっている。これはQ22に見るように男性の自由時間のピークが女性のそれよりもやや少ないこととよく符合する。また、年齢別では20歳代が最も多く、以下30歳代、40歳代、50歳代と低下し、60歳代で再び多くなっている（表-5参照）。居住地別、居住地条件別では、「西部地域」（47.1%）、「山間部」（49.6%）が最も学習経験が少ないようである。また学習経験の多い地域は、「北部地域」（63.4%）、「南部地域」（61.0%）であり、フェイスシートを通して見たその地域特性は以下のように指摘できよう。すなわち家族構成は「核家族的」であり、さらに完全ないしは隔週週休2日制の勤務条件下にあり、比較的自由時間も多い。そして町外、特に大阪府下に職場を有する住民が多いのが特徴であろう。こうした結果に照らせば、男性より女性が、また旧住民より新住民の方が学習経験が多いと言えよう。

表－5 学習経験（年齢別）

上段は実数、下段は%

	無 答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
無 答					1 0.6	1 0.7
あ る	4 57.1	54 60.7	77 58.3	85 55.9	81 52.3	85 57.0
な い	3 42.9	35 39.3	55 41.7	67 44.1	73 47.1	63 42.3

(3) 学習経験のない理由

次にQ2で学習経験がないと回答した回答者に限定してその理由を聞いてみた。「時間的ゆとりのなさ（以下ゆとり）」を挙げる回答者が最も多く回答者の52.6%を占めていた。次いで「学習の場所・機会がない（以下場所・機会）」を指摘する者が26.5%となっていた。性別に見た場合、男性の方が女性よりも「ゆとり」についても、「場所・機会」についても高い反応を示している。さらに年齢別に見て見ると、何れの年齢層も「ゆとり」が最も多い理由であるが、「場所・機会」については、年齢が高くなるにつれてその反応率が高くなる傾向が見られる（表－6参照）。

表－6 学習経験のない理由（年齢別）

上段は実数、下段は%

	無 答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
無 答	4 57.1	54 60.7	79 59.8	86 56.6	83 53.5	87 58.4
学習する必要がなかったから	1 14.3	2 2.2	2 1.5	6 3.9	5 3.2	7 4.7
学習する時間がなかったから		24 27.0	35 26.5	33 21.7	39 25.2	22 14.8
学習の場所・機会が手近になかったから	2 28.6	6 6.7	12 9.1	17 11.2	18 11.6	22 14.8
学習する方法がわからなかったら		2 2.2		5 3.3	5 3.2	3 2.0
そ の 他		1 1.1	2 1.5	3 2.0	3 1.9	8 5.4
非 該 当			2 1.5	2 1.3	2 1.3	

また居住地域別に見た場合、「東部地区」に「場所・機会」を理由に挙げる回答者が比較的多い（14.9%）ことが注目される。居住地条件別に見た場合は、「山間部」の方が「平野部」よりも、「場所・機会」についての反応率が高いようである。したがって、平群町内の生涯学習施設・設備の配置状況、生涯学習需要者の年齢に照らして、アクセス手段の整備・充実について十分検討する必要がある。

(4) 具体的な生涯学習経験

Q4で具体的な生涯学習経験について尋ねてみた。トータルに見た場合、表－7に見るような結果となった。「ワープロ・パソコン・情報処理」が最も多いことは、現代の情報化社会の進展を反映したものとして捉えられよう。性別に見た場合、男性に多い学習経験は、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」、「囲碁・将棋・チェス」、「時事・政治・経済（以下時事問題）」、

「ワープロ・パソコン・情報処理」、
「屋外スポーツ・レクリエーション活動」等である。他方女性は、「舞踊・茶道・華道」、「書道」、「文学」、「ボランティア活動」、「衣服」、「育児・子供の教育」、「食品に関する知識」、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」等の学習経験が多いようである。また年齢別に見た場合、学習経験には幾分かのパイアスが見られる。類型化すると i) 比較的高齢者に学習経験の多いもの、ii) 中年層に多いもの、iii) 若年層に多いもの、iv) 高齢者と若年層に多いもの、v) 一部の層を除きすべての階層に多いもの、に類別できよう。i) に入るものとしては、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」、「音楽」、「舞踊・茶道・華道」、「書道」、「囲碁・将棋・チェス」、「健康」などである。ii) としては、「文学」、「時事問題」、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」が指摘できよう。iii) に入るものとしては、「映画」、「外国語」、「育児・子供の教育」、「住宅に関する知識」、「屋外スポーツ・レクリエーション活動」が挙げられる。また iv) の類型はたいへんユニークであるが、「歴史」、「ボランティア活動」、「衣服」等がこの範囲に入る。v) に該当するものとしては、「福祉・年金・保険・税金などの知識」、「ワープロ・パソコン・情報処理」が挙げられよう。

最後に居住地域別に見てみよう。「東部地区」では、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」、「音楽」、「外国語」、「時事問題」等の学習経験が多い傾向が見られた。「西部地区」では、他の地域と比較して取り立てて学習経験の多い項目は見られず、上記の考察を傍証する結果となっている。また南部地区では、「書道」、「文学」、「歴史」、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」、「屋外スポーツ・レクリエーション活動」等の学習経験が多いようである。さらに北部地区では、「音楽」、「文学」、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」、「屋外スポーツ・レクリエーション」等の学習経験が見られた。したがって、南部地区と北部地区には学習経験に類似性があると指摘できよう。また、「舞踊・茶道・華道」、「衣服」、「ワープロ・パソコン・情報処理」、「健康」の項目については、何れの地域でも比較的学習経験の多いものであり地域差は見られなかった。

表-7 具体的な学習経験 (全体集計)

	ある	ない	非該当
美術・工芸・演芸・写真等	67人 9.8%	615人 89.9%	2人 0.3%
音楽 (含コーラス・詩吟・民謡)	56人 8.2%	627人 91.7%	1人 0.1%
舞踊 (ダンス)・茶道・華道等	59人 8.6%	625人 91.4%	0人 0.0%
映画 (知識と鑑賞)	14人 2.0%	670人 98.0%	0人 0.0%
書道 (含ペン習字・文章・手紙の書き方)	54人 7.9%	627人 91.7%	3人 0.4%
囲碁・将棋・チェス等	15人 2.2%	668人 97.7%	1人 0.1%
文学 (含俳句・短歌等)	26人 3.8%	658人 96.2%	0人 0.0%
歴史 (含郷土史)	20人 2.9%	664人 97.1%	0人 0.0%
外国語学習	32人 4.7%	652人 95.3%	0人 0.0%
時事問題・政治経済等	27人 3.9%	657人 96.1%	0人 0.0%
ボランティア活動 (老人介護・手話等)	23人 3.4%	661人 96.6%	0人 0.0%
福祉・年金・保険・税金等の知識	33人 4.8%	650人 95.0%	1人 0.1%
衣服 (含繊維・編み物・着付け)	66人 9.6%	616人 90.1%	2人 0.3%
育児・子供の教育等	28人 4.1%	655人 95.8%	1人 0.1%
住宅に関する知識 (含修理・室内装飾)	15人 2.2%	669人 97.8%	0人 0.0%
食品に関する知識 (含栄養・料理)	37人 5.4%	647人 94.6%	0人 0.0%
ワープロ・パソコン・情報処理	77人 11.3%	606人 88.6%	1人 0.1%
簿記・経理等	12人 1.8%	672人 98.2%	0人 0.0%
屋内で行うスポーツ・レクリエーション活動	75人 11.0%	608人 88.9%	1人 0.1%
屋外で行うスポーツ・レクリエーション活動	58人 8.5%	626人 91.5%	0人 0.0%
健康 (含保健・美容・成人病等の医療知識)	38人 5.6%	645人 94.3%	1人 0.1%
その他	42人 6.1%	641人 93.7%	1人 0.1%

(5) 学習方法

Q 5で生涯学習の具体的な学習方法について聞いてみた。全体集計で比較的高い反応の見られたものとしては、「個人や家元が開いている教室」(16.5%)、「図書館などの利用」(12.6%)、「町の公民館主催の教室」(10.8%)、「民間のスポーツクラブ」(10.5%)、「企業内研修」(10.4%)等が挙げられる。逆に反応の低かったものは、「大学・研究所等の公開講座」(2.3%)、「各種学校・専門学校・職業訓練学校」(3.7%)、「町や県の開催するスポーツ教室」(3.8%)等であった。

次に性別に見てみよう。Q 2の学習経験の回答結果に照らしてみれば、男性の学習方法に関する回答率は女性のそれよりも低くなると考えられる。しかるに「大学・研究所などの公開講座」、「企業内研修」、「図書館などの利用」といった項目については、圧倒的に男性の回答率が高かった。

さらに年齢別に見てみると、60歳代は「町の公民館主催の教室」、「新聞社・デパートなどのカルチャーセンター」、「個人や家元が開いている教室」を、50歳代は「町の公民館主催の教室」、「企業内研修」、「民間のスポーツクラブ」を、それぞれ学習機会としている傾向が見られた。40歳代では「大学・研究所などの公開講座」、「企業内研修」、「図書館などの利用」といった項目に比較的強い反応が見られた。30歳代では「個人や家元が開いている教室」や「民間のスポーツクラブ」が、また20歳代では「各種学校・専門学校・職業訓練学校」、「企業内研修」、「テレビ・ラジオなどの通信講座」、「図書館などの利用」、「民間のスポーツクラブ」などが、それぞれ学習機会となっている。

これを居住地別に見てみると、「東部地区」では、他地域と比べると「町の公民館主催の教室」、「大学・研究所などの公開講座」、「テレビ・ラジオなどの通信講座」、「図書館の利用」を通じての学習が比較的多いようである。「西部地区」は「県や隣接する市町村主催の教室・講演会」への参加者の比率がやや高いようである。また「南部地区」では、「町の公民館主催の教室」、「新聞社・デパートなどのカルチャーセンター」、「企業内研修」、「個人や家元が開いている教室」、「図書館の利用」、「民間のスポーツクラブ」などが学習機会となっているようである。「北部地区」は、「企業内研修」、「個人や家元が開いている教室」、「図書館の利用」、「民間のスポーツクラブ」を通じての学習が行われる傾向が見られる。

さらに居住地条件別の特長に注目して見ると、「山間部」が「平野部」を圧倒的に凌駕する項目は見られなかったものの、「平野部」で強い反応の見られた項目としては、「各種学校・専門学校・職業訓練学校」、「テレビ・ラジオなどの通信講座」、「図書館の利用」が挙げられる。

以上の結果に照らしてみれば、男性の生涯学習機会は職業上の必要性と密接に結びついているものと考えられる。また年齢別に見た場合も、40歳代および50歳代については同様の傾向が見られる。さらに南部地区と北部地区には共通した学習機会の利用が観察され、Q 4あるいはフェイスシートによって確認された両地区住民の同質性を支持する結果となっている。

(6) 学習に取り組んだ理由

Q 6でなぜ生涯学習に取り組んだのかを聞いて見た。表-8に見るように、「知らなかったことをもっと知るため」、「他人との交流を深める」を理由に挙げる回答者が多かった。性別に見た場合、表-9に見るように、「学ぶ楽しさを味わいたいため」、「違和感を味わいたいため」、「気分転換のため」といった項目の反応率は、女性の方が男性よりも高くなっている。したがって、日頃家庭内の人間関係を気遣うことが多いゆえか、女性の方が男性よりも生涯学習機会を「ストレス解消の場」として捉える傾向が強いことを指摘できよう。

さらに年齢別に見た場合、50歳代、60歳代では、特に「他人との交流を深めるため」を理由に挙げる回答者が多い（それぞれ14.2%、16.1%）。また「学ぶ楽しさを味わいたいため」については、20歳代、60歳代が比較的高い反応率を示している（それぞれ10.1%、9.4%）。そして、「知らなかったことをもっと知るため」という項目は20歳代が最も反応率が高かった（24.7%）。「気分転換のため」については、30歳代、20歳代の反応がやや高く出ている（それぞれ9.8%、7.9%）。こうした状況は生涯学習機会が各年齢層ごとに特別な役割を果たしていることを如実に示すものであろう。すなわち、高齢者にとっては新たな社会参加による「交流と娯楽の場」として、また若年者にとっては「新しい知識獲得およびストレス解消機会、ならびに娯楽の場」として機能していると言える。

次に居住地域別の回答結果を見てみよう。表-10に見るように、「他人との交流を深めるため」については「西部地区」と「南部地区」が、「学ぶ楽しさを味わいたいため」と「違和感を味わいたいため」については「南部地区」、「北部地区」が他地区と比較した場合高い反応率を示している。

表-8 学習に取り組んだ理由（全体集計）

他人との交流を深める	77人	11.3%
家族の絆を深める	3人	0.4%
学ぶ楽しさを味わう	51人	7.5%
知らなかったことをもっと知る	107人	15.6%
達成感を味わう	21人	3.1%
気分転換	41人	6.0%
その他	45人	6.6%
非該当	44人	6.4%
無 答	295人	43.1%

表-9 学習に取り組んだ理由（性別）

上段は実数、下段は%

	無 答	男 性	女 性	非 該 当
無 答	3 42.9	139 51.5	152 37.4	1 100.0
他人との交流を深めるため	1 14.3	28 10.4	48 11.8	
家族との絆を深めるため			3 0.7	
学ぶ楽しさを味わいたいため	1 14.3	13 4.8	37 9.1	
知らなかったことをもっと知るため	1 14.3	41 15.2	65 16.0	
違和感を味わいたいため		5 1.9	16 3.9	
気分転換のため		12 4.4	29 7.1	
そ の 他	1 14.3	22 8.1	22 5.4	
非 該 当		10 3.7	34 8.4	

表-10 学習に取り組んだ理由（居住地別）

上段は実数、下段は%

	無 答	東 部	西 部	南 部	北 部
無 答	11 64.7	80 46.0	69 50.0	68 39.5	67 36.6
他人との交流を深めるため	1 5.9	17 9.8	18 13.0	23 13.4	18 9.8
家族との絆を深めるため			1 0.7	1 0.6	1 0.5
学ぶ楽しさを味わいたいため	2 11.8	9 5.2	3 2.2	18 10.5	19 10.4
知らなかったことをもっと知るため	1 5.9	32 18.4	21 15.2	27 15.7	26 14.2
違和感を味わいたいため		4 2.3	1 0.7	8 4.7	9 4.4
気分転換のため		7 4.0	9 6.5	9 5.2	16 8.7
そ の 他	1 5.9	13 7.5	5 3.6	7 4.1	19 10.4
非 該 当	1 5.9	12 6.9	11 8.0	11 6.4	9 4.9

居住地条件別に見た場合、「学ぶ楽しさを味わいたいため」、「知らなかったことをもっと知るため」という項目については、「平野部」が、また「違和感を味わいたいため」、「気分転換のため」という項目は、「山間部」がそれぞれ高い反応率を示している。「山間部」では、生涯学習機会を「ストレス解消機会」として捉える傾向が見られる。これは「山間部」の地域特性、すなわち家族形態は「大家族」で、職業は「農業従事者」が多くを占めており、さらに日常の人間関係がややもすれば複雑となりがちであり、どちらかといえば厳しい労働条件下にあることと相関関係があるのではないかと思われる。

(7) 学習目的

Q7で学習目的について択一回答を求めた。全体集計では、表-11に見るように、「仕事や日常生活に役立てる」、「趣味を豊かにする」といった項目の反応率が高い。これを性別に見てみると、何れも女性の方が男性よりも強い反応を示している。また年齢別に見た場合、「仕事や日常生活に役立てる」については、20歳代が最も高く（27%）、以下年齢が高くなるにしたがって低下し、60歳代は8.1%と最も低い。「趣味を豊かにする」についても、20歳代が最も高く（21.3%）、30歳代、40歳代と低下し、40歳代が最も低い（9.2%）。そして50歳代（11.0%）、60歳代（19.5%）と再び増加する傾向が見られた。40歳代の回答者は、「教養を高める」という項目に比較的強い反応を示し（7.9%）、他の年齢層と学習目的がやや違うように思われる。

表-11 学習目的（全体集計）

仕事や日常生活に役立てる	124人	18.1%
教養を高める	35人	5.1%
趣味を豊かにする	98人	14.3%
健康や体力を維持増進する	60人	8.8%
老化防止	29人	4.2%
その他	10人	1.5%
非該当	34人	5.0%
無答	294人	43.0%

次に居住地域別に見てみよう。「仕事や日常生活に役立てる」という項目は、「南部地区」（23.3%）、「東部地区」（20.1%）の反応率が高い。また、「教養を高める」、「趣味を豊かにする」、「健康や体力を維持増進する」、「老化防止」については、「南部地区」、「北部地区」で強い反応が見られる。「健康や体力を維持増進する」という項目については、「西部地区」もやや高い反応（8.7%）が見られたことが注目される。こうした事実は、居住地条件別に見た場合、「山間部」の反応率が「平野部」のそれを唯一凌駕しているのがこの項目であることとよく符合する。

(8) 学習の阻害要因

Q8で生涯学習をする上における阻害要因について聞いてみた。「仕事や家事が忙しく時間が取れない（時間要因）」（22.7%）、「身近な所に学習できる場所や施設がない（施設・設備要因）」（14.3%）、「学習場所や施設利用時間が自分の都合と合わない（条件要因）」（13.3%）、「費用が高い（学習費要因）」（11.3%）などが理由として挙げられていた。これを性別に見ると、全体集計の結果にはほぼ一致しているが、男性の場合、「精神的余裕がない」、「施設・設備要因」、「条件要因」、「指導者がいない」、「一緒にやる人がいない」といった項目に女性よりもやや強く反応しているようである。

次に年齢別に見てみよう。「時間要因」については、20歳代の反応が最も強く(33.7%)、年齢が高くなるにつれて反応は低くなり、60歳代が最も低い(7.4%)。「精神的余裕がない」、「学習費要因」についても比較的若年者の方が強く反応しているようである。さらに「家計の余裕がない」については30歳代の反応(7.9%)が、「指導者がいない」および「一緒にやる人がいない」については20歳代の反応(5.7%、5.6%)が、それぞれ強く出ている。さらに「必要な情報が得られない」については、30歳代(5.3%)、40歳代(3.9%)、50歳代(3.9%)がやや強く反応している点は注目される。行政側の「学習情報提供システム」のより一層の整備・充実が必要となろう。

阻害要因を居住地地域別に見てみた場合、「時間要因」については、「南部地区」(29.7%)、「西部地区」(27.5%)、「北部地区」(24.6%)が強い反応を示している。また「学習費要因」については、「南部地区」(15.7%)、「北部地区」(12.6%)が他地域と比較した場合高い反応を示している。これは、両地域の回答者の学習方法として、費用が高い「民間のスポーツクラブ」の利用が挙げられていたことと相関関係があるのではないかと思われる。さらに「施設・設備要因」について、「東部地区」(16.1%)、「北部地区」(16.4%)で強い反応が見られることが注目される。このことは、平群町の生涯学習資源の地域配置の適切性と関わる問題であろう。今後の施設・設備の整備・充実にあたっては、現実の配置状況に照らして、地域的アクセスの均等化を図ることが重要な行政課題となろう。そして「条件要因」は「南部地区」、「北部地区」で、また「指導者がいない」、「必要な情報がえられない」は「北部地区」で、それぞれやや強い反応が見られた。

最後に居住地条件別に見てみよう。明確な差異が見られたものとしては、「時間要因」と「条件要因」であった。前者については、「山間部」の方が「平野部」よりも高い反応率となっている(それぞれ26.5%、22.1%)。また後者については、逆に「平野部」の方が「山間部」よりも高い反応を示している(それぞれ15.0%、7.7%)。これらの差異はいずれも地域住民の労働・勤務条件の違いに起因するものであろう。

(9) 新たな学習意欲

Q9では今後の学習意欲の有無を聞いてみた。表-12に見るように、全体集計では回答者の84.8%が新たな学習意欲を示している。これを性別に見た場合、男女間の差はほとんど見られないが、女性の方がやや意欲的な観がある(それぞれ82.6%、86.7%)。また、年齢別に見た場合、30歳代が最も意欲的であり20歳代がそれに続いている。60歳代以上は最も低くなっており、新たな学習意欲の喚起は、他の年齢層と比較すると難しいのではないかと考えられる(表-13参照)。

次に地域別に見てみよう。表-14に見るように、「北部地区」住民の学習意欲が最も高く、以下「南部地区」、「東部地区」と続く。「西部地区」は最も低い反応率となっている。こうした結果は、各地域住民の職業・労働条件、家族構成の違いと連動するものであろう。さらに居住地条件別に見た場合、「平野部」の方が「山間部」よりも高い学習意欲が示されているが(それぞれ87.1%、79.5%)、これも地域別差異と同様の理由によるものと指摘できよう。

表-12 新たな学習意欲の有無(全体集計)

あ	る	580人	84.8%
な	い	90人	13.2%
無	答	14人	2.0%

表-13 新たな学習意欲の有無（年齢別）

上段は実数、下段は%

	無 答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
な い	1 14.3	1 1.1		3 2.0	3 1.9	6 4.0
あ る	4 57.1	80 89.9	125 94.7	134 88.2	133 85.8	104 69.8
非 該 当	2 28.6	8 9.0	7 5.3	15 9.9	19 12.3	39 26.2

表-14 新たな学習意欲の有無（居住地条件別）

上段は実数、下段は%

	無 答	東 部	西 部	南 部	北 部
無 答	3 17.6	4 2.3	4 2.9	3 1.7	
あ る	11 64.7	148 85.1	108 78.3	149 86.6	164 89.6
な い	3 17.6	22 12.6	26 18.8	20 11.6	19 10.4

(10) 具体的な新規学習需要

Q10では、Q9で新規学習に肯定的回答を寄せた回答者を対象に、具体的な学習需要を尋ねてみた。ここでは調査結果の概要を簡単に示すと同時に、今後の生涯学習需要の伸長度を計測し、具体的施策立案の基礎データを得ることを目的とする。

① 調査結果の概要

全体集計では、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」（28.1%）、「書道」（23.5%）、「ワープロ・パソコン・情報処理」（22.3%）等が強い反応を示している（具体的なデータは付属資料を参照）。性別に見た場合、男性の回答では、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」（35.2%）、「囲碁・将棋・チェス」（11.5%）、「歴史」（20.0%）、「時事問題」（17.0%）、「住宅に関する知識」（12.2%）、「地域の農作物についての栽培技術」（9.3%）、「屋外スポーツ・レクリエーション活動」（18.9%）等に強い反応が見られた。また女性は、「音楽」（14.5%）、「舞踊・茶道・華道」（16.5%）、「書道」（30.5%）、「ボランティア活動」（15.0%）、「衣服」（15.9%）、「育児・子供の教育」（8.4%）、「食品に関する知識」（22.9%）、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」（17.2%）、「健康」（19.0%）等に強い反応を示している。

次に年齢別について見てみよう。回答者の反応は、世代間に、(a)片寄りの見られるもの(b)片寄りの見られないもの、に類別できる。前者はさらに、i) 若年層、ii) 中年層、iii) 高年齢層、iv) 若年層と高年齢層、v) 中・高年齢層、vi) 若年・中年層、に重点的な需要の見られるものに分けられよう。また後者は反応率の高いものと低いものに分けられる。若年者に多い学習需要は、「外国語学習」、「子どもの教育」、「簿記・経理」、「屋外スポーツ・レクリエーション活動」であろう。中年層は「映画」に、「高年齢層」は「囲碁」、「文学」、「歴史」、「地域の農作物の栽培技術」等にそれぞれ学習需要が見られる。また、「音楽」、「舞踊・茶道・華道」、「時事問題」は若年層・高年齢層に、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」は中・高年齢層に、それぞれ強い学習需要である。さらに若年・中年層に見られる需要は、「ボラン

ティア活動」、「衣服」、「ワープロ・パソコン・情報処理」、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」等である。世代間で反応率に差のなかったものの内、何れの世代でも比較的需要の多かったものとしては、「書道」、「福祉・年金・保険に関する知識」、「住宅に関する知識」、「食品に関する知識」、「健康」が挙げられる。また需要の少なかったものは「人権学習」である。

さらに、学習需要に明確な地域的差異の見られるものを整理すると、表-15の概要となる。特に「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」の「東部地区」(35%)、「北部地区」(34.4%)、「歴史」の「東部地区」(17.2%)、「福祉・年金・保険・税金に関する知識」の「南部地区」(20.3%)等が特徴的である。

また居住地条件別に見た場合、「平野部」の方が「山間部」よりも多くの項目で強い反応が見られた。ところが「人権学習」、「簿記・経理」、「地域の農作物の栽培技術」については、逆に「山間部」の反応の方が強くなっている。

表-15 地域別将来学習需要

学習項目	地 域	学習項目	地 域
美術・工芸・園芸 ・写真・陶芸	東部地区 (35%)	ボランティア	東部地区 (16.7%)
	南部地区 (34.4%)		南部地区 (12.8%)
舞踊・茶道・華道	東部地区 (14.4%)	福祉・年金・保険 ・税金	南部地区 (20.3%)
	北部地区 (12%)		東部地区 (15.3%)
書 道	すべての地区で高い	簿記・経理	西部地区 (8.0%)
歴 史	東部地区 (17.2%)	地域の農作物の栽培技術	東部地区 (9.8%)
	南部地区 (15.7%)		
時事問題	東部地区 (12.1%)		
	南部地区 (11.6%)		

表-16 新たな生涯学習需要の伸びの予測 (全体集計)

単位は%

学習項目	予測伸び率	学習項目	予測伸び率
美術・工芸・演芸・写真 ・陶芸	18.3	福祉・年金・保険・税金	11.0
音 楽	4.7	衣 服	5.9
舞踊・茶道・華道	2.8	育児・子供の教育	1.9
映 画	5.9	住宅に関する知識	7.3
書 道	15.6	食品に関する知識	11.3
囲碁・将棋・チェス	3.1	ワープロ・パソコン・ 情報処理	11.2
文 学	4.4	簿記・経理	3.9
歴 史	10.6	屋内スポーツ	3.6
外国語学習	10.7	屋外スポーツ	6.1
時事問題	6.3	健 康	10.3
ボランティア活動	8.7		

表-17 新たな生涯学習需要の伸びの予測（性別）

単位は%

学習項目	男性	女性	学習項目	男性	女性
美術・工芸・演芸・写真・陶芸	22.2	16.0	福祉・年金・保険・税金	12.2	10.4
音楽	4.1	5.9	衣服	0.4	0.1
舞踊・茶道・華道	2.6	3.0	育児・子供の教育	1.1	2.7
映画	7.0	4.7	住宅に関する知識	9.6	5.9
書道	8.5	20.6	食品に関する知識	5.9	14.5
囲碁・将棋・チェス	6.7	0.8	ワープロ・パソコン・情報処理	10.4	12.1
文学	6.3	2.9	簿記・経理	3.3	4.5
歴史	15.6	7.1	屋内スポーツ	3.7	3.2
外国語学習	10.4	10.3	屋外スポーツ	7.8	5.1
時事問題	10.3	3.2	健康	7.1	12.6
ボランティア活動	6.3	10.1			

表-18 新たな生涯学習需要の伸びの予測（年齢別）

単位は%

学習項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	学習項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
美術・工芸・演芸・写真・陶芸	9.0	21.2	28.3	12.3	18.1	福祉・年金・保険・税金	13.5	13.7	11.8	7.7	8.1
音楽	11.0	9.1	4.6	2.8	1.3	衣服	5.7	14.4	7.9	6.5	-4.7
舞踊・茶道・華道	10.1	3.8	0	7.1	-4.0	育児・子供の教育	3.3	9.9	-1.9	0	12.7
映画	-3.5	9.1	7.9	5.8	6.7	住宅に関する知識	5.6	9.8	6.6	7.1	7.4
書道	9.0	15.9	23.6	17.4	10.0	食品に関する知識	15.7	12.2	9.9	12.2	12.1
囲碁・将棋・チェス	2.2	1.5	1.3	6.4	3.3	ワープロ・パソコン・情報処理	12.4	28.8	10.5	1.9	6.7
文学	3.3	2.2	2.0	5.8	7.4	簿記・経理	15.8	8.3	1.3	0	0
歴史	0	4.5	13.1	15.5	14.1	屋内スポーツ	12.3	10.6	2.7	3.2	-0.7
外国語学習	15.8	18.2	11.8	5.8	3.3	屋外スポーツ	10.1	17.5	0	4.5	2.1
時事問題	14.6	6.8	3.3	1.9	7.4	健康	6.7	11.4	7.3	12.9	12.1
ボランティア活動	12.4	9.1	9.9	10.3	2.7						

② 新たな学習需要創出の可能性

本調査では、Q4とQ10を比較することによって、今後の生涯学習需要の伸びを予測してみた。計算方法は、将来需要を示していると考えられるQ10の各項目と、Q4の対応項目の反応率の差を求めることによる。本報告では、全体集計（表-16）、性別（表-17）、年齢別（表-18）、居住地域別（表-19）、居住地条件別（表-20）に計測した。

まず、全体集計を基に将来需要の伸びを予測してみよう。表-16からも明らかなように、平郡町の場合、2桁の伸びが期待できる項目として以下のものが指摘できよう。すなわち、それは、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」（18.3%）、「書道」（15.6%）、「外国語学習」（10.7%）、「福祉・年金・保険・税金に関する知識」（11%）、「食品に関する知識」（11.3%）、「ワープロ・パソコン・情報処理」（11.2%）、「健康」（10.3%）である。トータルに考えた場合、今後の生涯学習振興のためには、こうした項目の学習機会を整備・充実に効果的であると考えられよう。

次に性別に見てみよう。表-17からも明らかなように、i) 男性、女性とも需要の伸びが期待されるもの、ii) 男性の需要の伸びが期待されるもの、iii) 女性の需要の伸びが期待されるもの、に類別され、全体集計の場合と幾分違った様相を呈している。2桁以上の需要の伸びが期待されるものとしては、i) の場合、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」、「外国語学習」、「福祉・年金・保険・税金に関する知識」、「ワープロ・パソコン・情報処理」等が挙げられる。またii)としては「歴史」、「時事問題」が、iii)としては「書道」、「ボランティア活動」、「食品に関する知識」、「健康」が、それぞれ指摘できる。全体集計では見られなかった学習需要の微妙な性差が顕在化し大へん興味深い。したがって、生涯学習施策策定に当たっては、男女の就業状況、自由時間の違いに加えて、興味・関心の違いを十分考慮すべきであろう。

さらに年齢別に見てみると、トータルには需要の伸びが期待される項目でも、世代によってかなり差異が存在することが分かる（表-18参照）。たとえば「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」は、トータルには高い需要の伸びが期待される。ところが20歳代の伸びは、他の世代のそれと比較するとやや低く（9.0%）、40歳代（28.3%）、30歳代（21.2%）の需要が最も伸びる様相を呈している。また「音楽」および「舞踊・茶道・華道」は、全体としての需要の伸びはあまり期待できないが、20歳代については2桁の伸び（11.0%、10.1%）が期待される。これらは、60歳代ではほとんど需要の伸びが期待できないか、むしろ今後需要が落ち込む可能性すら予測される項目である。「書道」については、40歳代の需要の伸びが最も高く（23.6%）、以下50歳代、30歳代と続く。この場合20歳代の需要の伸びがやや低い（9.0%）のが特徴的である。さらに「歴史」は50歳代を中心に、比較的年輩者の需要の伸びが期待される。ところが、「外国語学習」、「時事問題」、「ボランティア活動」、「福祉・年金・保険・税金に関する知識」については、若年層、とりわけ20歳代の需要の伸びが期待できそうである。ただし「ボランティア活動」は、20歳代に加えて50歳代の需要も2桁の伸びが予想される。「衣服」についても、筆者は20歳代の需要の伸びが最も大きいのではないかと予想したが、結果は30歳代の伸びが最大となるようである。次いで「食品に関する知識」について検討してみよう。この項目は40歳代を除いていずれも高い需要が見込めるものであるが、20歳代の伸びが最も大きいと予測される。以下、「ワープロ・パソコン・情報処理」、「簿記・経理」、「屋内スポーツ・レクリエーション活動」、「屋外スポーツ・レクリエーション活動」については、若年層を中心とした需要の伸びがかなり期待されるが、高齢層の需要の伸びはほとんど期待できないようである。

表-19 新たな生涯学習需要の伸びの予測（居住地域別）

単位は%

学 習 項 目	東部	西部	南部	北部	学 習 項 目	東部	西部	南部	北部
美術・工芸・演芸・ 写真・陶芸	23.5	10.1	18.1	21.3	福祉・年金・保険・ 税金	9.8	8.0	14.5	8.7
音 楽	4.6	8.0	7.0	2.8	衣 服	4.6	8.0	6.9	4.4
舞踊・茶道・華道	6.4	1.4	0.6	3.8	育児・子供の教育	4.0	-1.3	1.7	1.6
映 画	8.0	0.8	5.9	7.1	住宅に関する知識	9.2	3.6	9.3	6.6
書 道	19.0	16.7	11.7	16.4	食品に関する知識	12.6	12.3	10.5	10.4
囲碁・将棋・チェス	4.1	0.7	5.2	2.2	ワープロ・パソコン・ 情報処理	11.0	8.8	12.8	13.1
文 学	5.7	0.7	5.3	4.9	簿記・経理	1.8	4.4	4.1	5.5
歴 史	14.9	5.8	11.6	9.3	屋内スポーツ	6.9	5.8	3.5	-1.6
外国語学習	6.9	11.6	10.5	13.1	屋外スポーツ	7.5	3.6	6.4	6.0
時事問題	6.4	1.5	7.5	7.5	健 康	11.5	7.2	12.2	9.8
ボランティア活動	15.0	2.2	9.3	7.1					

表-20 新たな生涯学習需要の伸びの予測（居住地条件別）

単位は%

学 習 項 目	山間部	平野部	学 習 項 目	山間部	平野部
美術・工芸・演芸・ 写真・陶芸	10.3	21.6	福祉・年金・保険・ 税金	12.0	10.5
音 楽	7.7	5.5	衣 服	8.5	6.2
舞踊・茶道・華道	-2.6	3.3	育児・子供の教育	-0.9	1.8
映 画	3.4	6.3	住宅に関する知識	0.9	9.2
書 道	10.3	16.6	食品に関する知識	12.8	11.3
囲碁・将棋・チェス	0.8	3.5	ワープロ・パソコン・ 情報処理	10.1	12.1
文 学	0.2	5.5	簿記・経理	6.8	3.9
歴 史	10.3	10.8	屋内スポーツ	3.4	3.5
外国語学習	11.9	10.9	屋外スポーツ	0.9	7.4
時事問題	3.4	7.8	健 康	7.7	10.7
ボランティア活動	4.3	10.4			

生涯学習項目21項目中、20歳代は11項目に、30歳代は9項目に、40・50歳代は6項目に、60歳代以上は5項目に、それぞれ2桁以上の需要の伸びが予想される。したがって、今後の生涯学習振興にあたっては、20歳代、30歳代の若年層をターゲットとして、どのように取り込むかということが重要な検討課題となろう。

さて、居住地域別に将来需要の伸びを予測したのが表-19である。全体集計の場合と同様、「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」、「書道」、「食品に関する知識」については、何れの地域においてもかなりの伸びが期待できそうである。他は表からも明らかなように幾分地域的な差異が見られる。居住地域別に2桁以上の需要の伸びが期待できる項目を見てみよう。「東部地区」は7項目、「西部地区」は4項目、「南部地区」は8項目、「北部地区」は5項目となっている。こうした実態に照らせば、「南部地区」、「東部地区」では生涯学習の潜在的需要が大きいと言えるのではないだろうか。特に、「東部地区」では「歴史」、「ボランティア活動」についての、また「南部地区」では「福祉・年金・保険・税金等の知識」、「健康」についての学習需要の伸びが予想される。こうした地域的な差異は、一に地域住民の生活・職業・労働条件等の違いが微妙に影響していると思われる。生涯学習施策策定に当たっては、地域住民の諸属性への十分な配慮が肝要となろう。

最後に居住地条件別に予測したのが表-20である。「山間部」では、「食品に関する知識」、「福祉・年金・保険・税金などの知識」に、他方「平野部」では「美術・工芸・園芸・写真・陶芸」、「書道」、「ワープロ・パソコン・情報処理」に、それぞれ高い需要の伸びが予想される。そして、2桁以上の需要の伸びが期待される項目は、「山間部」が7項目、「平野部」が9項目であり、「平野部」の方が高い潜在的需要があると言えよう。こうした居住地条件別の差異は、就労・職業条件の違いに加えて、アクセス・情報面で「山間部」が不利な条件下に置かれていることに起因するものではないかと考えられる。それ故、行政側の地域住民に対する生涯学習権の均等な保障のための積極的な諸施策が期待されるのである。

(1) 学習程度の希望

Q11でどの程度の学習を希望するか聞いてみた。全体集計では、「入門・初歩よりやや程度が高い」(31.9%)と、「程度は問わない」(34.9%)とに回答は大きく2分されている(表-21参照)。これをさらに性別に見ると、「入門・初歩よりやや程度が高い」と「かなり程度が高く専門家に近い」については、男性が女性を凌駕している(表-22参照)。したがって男性の方が女性よりもより程度の高い学習需要を持っていると言えよう。

今度はややスタンスを変えて年齢別に見てみよう。30・40歳代では、他の世代とは逆に、「程度は問わない」よりも「入門・初歩よりやや程度が高い」に強い反応を示している(表-23)。これは、この世代の生涯学習経験が企業内教育・訓練と不可分であったことも相まって、明確な学習目的をもっている場合が多いからではないか、とも考えられる。

次に居住地域別に見てみると、「東部地区」、「南部地区」の回答者は、「程度は問わない」よりも「入門・初歩よりやや程度が高い」に強い反応を示している。居住地条件別に見た場合、「平野部」ではこの2つの項目に対する反応差はほとんど見られない。ところが「山間部」では、「程度は問わない」に最も強い反応が見られる結果となっている。これは、「山間部」住民の就業・労働条件、家族構成等の諸要因に規定された生涯学習観に起因するものであろう。

表-21 学習程度の希望 (全体集計)

入門・初歩程度	53人	7.7%
入門・初歩よりやや程度が高い	218人	31.9%
かなり程度が高く専門家に近い	60人	8.8%
程度は問わない	293人	34.9%
非該当	14人	2.0%
無答	100人	14.6%

表-22 学習程度の希望（性別）

	上段は実数、下段は%			
	無答	男性	女性	非該当
無 答	3 42.9	48 17.8	49 12.1	
入門・初歩程度		15 5.6	38 9.4	
入門より やや程度が高い	2 28.6	98 36.3	117 28.8	1 100.0
かなり程度が高 く専門家に近い	2 28.6	33 12.2	25 6.2	
程度は問わない		72 26.7	167 41.1	
非 該 当		4 1.5	10 2.5	

表-23 学習程度の希望（年齢別）

	上段は実数、下段は%					
	無答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
無 答	3 42.9	10 11.2	8 6.1	16 10.5	22 14.2	41 27.5
入門・初歩程度		2 2.2	17 12.9	10 6.6	12 7.7	12 8.1
入門・初歩 よりやや程 度が高い	2 28.6	30 33.7	48 36.4	56 36.8	48 31.0	34 22.8
かなり程度 が高く専門 家に近い	2 28.6	12 13.5	13 9.8	16 10.5	9 5.8	8 5.4
程度は問わ ない		34 38.2	44 33.3	52 34.2	60 38.7	49 32.9
非 該 当		1 1.1	2 1.5	2 1.3	4 2.6	5 3.4

(12) 学習に都合のよい時間・曜日

Q12-Aで学習に都合の良い曜日を尋ねてみた。全体集計では、筆者の予想に反して「平日」の希望者が最も多くなっている。しかし「土曜」、「日曜」の合計回答者数（以下「土・日合計」）と「平日」の回答者数はほぼ拮抗状態にあり（表-24参照）、さらにこの内実を詳細に分析することが必要となろう。

表-24 学習につごうのよい曜日（全体集計）

日 曜	96人	14.0%	分からない	55人	8.0%
土 曜	132人	19.3%	非 該 当	20人	2.9%
平 日	211人	30.8%	無 答	99人	14.5%
何曜日でも	71人	10.4%			

先ず性別に見てみると、「土・日合計」回答者数は、男性が46.7%であるのに対し、女性は24.4%に留まっている。他方「平日」については、男性12.6%、女性43.3%となっており、性差による就労条件の違いが反映された結果となっている（表-25参照）。次に年齢別に見てみよう。30歳代と60歳代は、「土・日合計」よりも「平日」を選ぶ回答者が多い。取り分け30歳代は、「平日」を選択した回答者数が最も多くなっている（46.2%）。また、60歳代は「何曜日でも良い」とする回答者数も多く（20.8%）、自由時間の多寡との相関を窺わせる結果となっている（表-26参照）。さらに「土曜」と「日曜」の回答結果に注目すると、20歳代のみが「日曜」に強い反応が見られる。こうした実情は、若者にとって週末は、学習のための時間ではなく、他の「娯楽」に当てる時間とする「ライフスタイル」

表-25 学習につごうのよい曜日（性別）

	上段は実数、下段は%			
	無答	男性	女性	非該当
無 答	3 42.9	43 15.9	53 13.1	
日 曜		57 21.1	39 9.6	
土 曜	3 42.9	69 25.6	60 14.8	
平 日		34 12.6	176 43.3	1 100.0
何曜日でもよい	1 14.3	32 11.9	38 9.4	
分からない		24 8.9	31 7.6	
非 該 当		11 4.1	9 2.2	

が定着しつつある証左ではあるまいか。

これをやや視点を変えて居住地域別に見てみよう。「平日」の回答者数が「土・日合計」を上回っているのは「東部地区」のみであり、また同地区は「何曜日でもよい」という項目の回答者数では最も強い反応を示している(12.6%)。これは、「東部地区」の回答者に占める50・60歳代の割合が49.5%と、最も高年齢層の比率が高いことに起因するものであろう。さらに居住地条件別に見た場合、「山間部」は「平日」(33.3%)を、他方「平野部」は「土・日合計」(34.5%)を、それぞれ選択する傾向が看取される。これも就業・労働条件の違いによるものであろう。

表-26 学習につごうのよい曜日(年齢別)

上段は実数、下段は%

	無 答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
無 答	3 42.9	9 10.1	6 4.5	19 12.5	22 14.2	40 26.8
日 曜		19 21.3	19 14.4	25 16.4	23 14.8	10 6.7
土 曜	3 42.9	12 13.5	31 23.5	34 22.4	37 23.9	15 10.1
平 日		16 18.0	61 46.2	48 31.6	46 29.7	40 26.8
何曜日でもよい	1 14.3	12 13.5	6 4.5	11 7.2	10 6.5	31 20.8
分からない		19 21.3	9 6.8	10 6.6	10 6.5	7 4.7
非 該 当		2 2.2		5 3.3	7 4.5	6 4.0

次に学習に都合のよい時間をQ12-Bで聞いてみた。全体集計を見ると、多い回答は「午前」(27.9%)と「午後」(26.5%)に大きく2分されている。これを性別に見ると、「午前」、「午後」とも、女性の反応率は男性のそれを上回り、どちらかと言えば午前中の学習を望む人の方が多きようである(午前31.8%、午後28.6%)。男性の場合、「夜」および「いつでもよい」という項目については、女性よりも強い反応率を示している。こうした違いは、日常生活における男女の役割機能の違いによるものであろう。また年齢別に見た場合、特徴的なことは、20、30、40歳代は「午前」を、50、60歳代は「午後」を希望する傾向が見られることである(表-27参照)。特に「夜」を希望する回答者は、20歳代が最も多く(31.5%)、60歳代以上が極端に低い(0.7%)ことが注目される。こうした実態に照らしてみれば、世代間の体力・ライフスタイルの違いに配慮した生涯学習機会の設定が肝要であると考えられる。

居住地域別に見てみると、「北部地域」以外は何れも「午前」を希望する回答者が多い(表-28参照)。また「西部地区」の「夜」を希望する回答者が多いことにも留意せねばならない。同様の傾向は、「西部地区」に居住地条件が重なる「山間部」にも看取される。したがって、「西部地区」あるいは「山間部」における生涯学習の振興については、その就業・労働条件、家族構成等の要因に加えて、時間設定についても十分配慮することが肝要であろう。

表-27 学習につごうのよい時間（年齢別）

上段は実数、下段は%

	無 答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
無 答	3 42.9	11 12.4	6 4.5	18 11.8	22 14.2	45 30.2
午 前 中		14 15.7	56 42.4	56 36.8	35 22.6	30 20.1
午 後	2 28.6	11 12.4	30 22.7	36 23.7	54 34.8	48 32.2
夜		28 31.5	25 18.9	23 15.1	17 11.0	1 0.7
いつでもよい	1 14.3	9 10.1	7 5.3	8 5.3	13 8.4	15 10.1
分からない		14 15.7	8 6.1	6 3.9	9 5.8	3 2.0
非 該 当	1 14.3	2 2.2		5 3.3	5 3.2	7 4.7

表-28 学習につごうのよい時間（居住地域別）

上段は実数、下段は%

	無 答	東 部	西 部	南 部	北 部
無 答	8 47.1	27 15.5	29 21.0	19 11.0	22 12.0
午 前 中	1 5.9	54 31.0	31 22.5	58 33.7	47 25.7
午 後	3 17.6	43 24.7	27 19.6	53 30.8	55 30.1
夜	1 5.9	21 12.1	32 23.2	15 8.7	25 13.7
いつでもよい	1 5.9	12 6.9	4 2.9	16 9.3	20 10.9
分からない	1 5.9	12 6.9	9 6.5	7 4.1	11 6.0
非 該 当	2 11.8	5 2.9	6 4.3	4 2.3	3 1.6

表-29 生涯学習に関して平群町に望むこと（ハード面）

	あ る	な い	非 該 当
図書室・図書館の拡充及び設置	388人 49.4%	343人 50.1%	3人 0.4%
文化ホール等催し物の開催できる施設	285人 41.7%	397人 58.0%	2人 0.3%
文化財や伝統文化を保存・閲覧できる資料館・博物館	124人 18.1%	558人 81.6%	2人 0.3%
テニスや野球等屋外で行うスポーツ施設の設置	100人 14.6%	582人 85.1%	2人 0.3%
エアロビクスや武道等屋内スポーツ施設の設置	159人 23.2%	522人 76.3%	3人 0.4%

表-30 使用外学習に関して平群町に望むこと（ソフト面）

	ある	ない	非該当
学習や講座を利用しやすい時間帯に開いてほしい	201人 29.4%	478人 69.9%	5人 0.7%
もっと多彩な学級や講座の開催	222人 32.5%	460人 67.3%	2人 0.3%
資格の取れる講座の開催	150人 21.9%	532人 77.8%	2人 0.3%
学習の際の指導者の紹介	42人 6.1%	642人 93.9%	0人 0.0%
施設や講座等の情報提供 (県内の情報も含めて)	230人 33.6%	453人 66.2%	1人 0.1%
講演会や研修会・見学会をもっと開催	161人 23.5%	520人 76.0%	3人 0.4%
その他の要望事項	92人 13.5%	591人 86.4%	1人 0.1%

(13) 生涯学習に関して平群町に望むこと

Q13-AとQ13-Bで、生涯学習を振興する上で平群町に希望することを尋ねてみた。前者は主に施設・設備といったハード面について、また後者は講座内容や指導者といったソフト面についての設問である。全体集計では、ハード面では「図書室・図書館の拡充・設置」と「文化ホール等催し物の開催ができる施設」に対する希望が圧倒的であった（表-29参照）。他方ソフト面では、「施設や講座等の情報提供」や「もっと多彩な学級や講座の開催」等を望む声が多い（表-30参照）。

次に性別に見てみよう。まずハード面について見てみよう。全体集計の反応率を越えるものとしては、男性では「文化財や伝統文化を保存・閲覧できる資料・博物館」や「屋外スポーツ施設の設置」が、女性では「屋内スポーツ施設の設置」が、それぞれ指摘できる。ソフト面についてもその反応に男女差の見られる項目が確認できる。たとえば、「学習や講座の利用しやすい時間帯での設定」や「もっと多彩な学級や講座の開催」を望む声は、男性よりも女性の方が強いようである。逆に男性の反応率が女性のそれよりも強いものとしては、「学習指導者の紹介」、「施設・講座の情報提供」が挙げられよう。

さらに年齢別に見てみよう。ハード面の反応から見てみよう。「図書室・図書館の拡充・設置」は30歳代が最も強く望んでいる様子が窺える。ところが、「文化ホール等の催し物の開催ができる施設」、「文化財や伝統文化を保存・閲覧できる資料・博物館」については40・50歳代の希望が多い。そして「屋外・屋内スポーツ施設」については、20・30歳代の希望が多い等、ハード面の整備に対する世代間の意識差が見られることに留意すべきである。次にソフト面の反応を見てみよう。「学級や講座を利用しやすい時間帯に開いてほしい」という希望は、20・30・40歳代に多い。また「もっと多彩な学級や講座の開催」については30・40歳代の希望が、また「資格の取れる講座の開催」については20歳代の希望が、特に多いようである。さらに「施設や講座等の情報提供」は、20・30・40歳代に多く見られる希望である。「講演会や研修会・見学会」は、50・60歳代の高齢者の反応に強く見られる項目である。

次にややスタンスを変えてハード面の希望を居住地別に見てみよう。概ね全体集計と大差のない結果となっているが、「西部地区」で「屋内・外スポーツ施設」についての反応が他地域より若干低くなっているのが特徴的である（それぞれ5.8%と17.4%）。ソフト面について見てみると、「学級や講座を利用しやすい時間帯に開いてほしい」という希望は、「西部地区」（32.6%）、「東部地区」（30.6%）で強い。また「もっと多彩な学級や講座の開催」については、「北部地区」（41.5%）、「東部地区」（37.9%）で特に強い希望が表示されている。

さらに「施設や講座等の情報提供」は「北部地区」（40.4%）、「南部地区」（36.6%）で、「講演会や研修会・見学会」は「南部地区」（30.8%）でそれぞれ強い反応が見られる。

最後に居住地条件別に見てみよう。ハード面での希望としては、「山間部」は「文化ホール」（47.0%）や「資料館・博物館」（23.1%）に、また「平野部」は「図書室や図書館の拡充・設置」（53.3%）、「屋内スポーツ施設の設置」（25.8%）に、それぞれやや強い反応を示しているのが特徴的である。ソフト面では、「もっと多彩な学級や講座の開講」や「講演会や研修会・見学会」については、「平野部」の方が「山間部」よりも強く希望する傾向が見られる。また「資格の取れる講座の開講」や「指導者の紹介」については、逆に「山間部」の方が「平野部」よりやや強い反応を示している。

⑭ 平群町の施設利用・認知状況

Q14で平群町内の既存の生涯学習資源の利用・認知状況について聞いてみた。全体集計では、「中央公民館」、「健民運動場」については、比較的良好に利用されているようである（「よく利用する」「利用したことがある」を併せて、それぞれ63.9%、49.9%）。ところが他の施設については、「知っているも利用したことがない」（たとえば、中央公園グラウンド、テニスコート、総合スポーツセンター、老人福祉センター、ゲートボール場、診療所等）、あるいは「知らなかった」（農村環境改善センター）との回答が多数を占めていた。性別に見ても、全体集計とほぼ同様の結果となっており、明確な性差はみられない。

次に年齢別に見てみよう。全体集計で「中央公民館」および「健民運動場」の利用度の高さが注目されたが、これは30・40歳代の利用度が高いことに起因するようである。また、「中央公園グラウンド」および「総合スポーツセンター」については、30歳代の利用度がやや高く表れている（「よく利用する」「利用したことがある」を併せて、それぞれ26.5%、61.4%）。「老人福祉センター」の利用については、60歳代は他の世代と比較するとやや高い利用度が見られた（「よく利用する」「利用したことがある」を併せて24.8%）。ところが「ゲートボール場」の利用度を見ると、対象年齢の60歳代以上の利用がかなり低いことに驚かされる（「よく利用する」「利用したことがある」を併せて1.3%）。さらに「小・中学校の運動場や体育館の開放」は30歳代に利用されているようである（「よく利用する」「利用したことがある」を併せて37.1%）が、これは子供の就学と関係するものではないかと考えられる。

これを居住地域別に見てみると、全体集計では比較的良好に利用度が高く出ている「中央公民館」および「健民運動場」の利用度が、「北部地区」では、他地域と比べるとやや低いように思われる（「よく利用する」「利用したことがある」を併せて、それぞれ57.9%、41%）。また、「中央公園グラウンド」および「総合スポーツセンター」の利用度は、「南部地区」がやや高くなっている。そして「老人福祉センター」は「東部地区」でやや利用度が高く、「若井総合会館」、「診療所」、「農村環境改善センター」は「西部地区」の利用度が高いようである。地域によっては、こうした平群町内の施設の利用度を認知していない場合も散見された。たとえば「南部地区」では、「テニスコート」、「老人福祉センター」、「若井総合会館」、「農村環境改善センター」についての認知度がかなり低い結果となっている。また「北部地区」でも、「老人福祉センター」を除いて「南部地区」と同様の結果となっている。したがって、既存施設のより一層の有効利用を図るため、生涯学習資源に関する行政側のより活発な広報・情報公開活動が期待されるのである。

さらに居住地条件別に見てみよう。筆者は、既存施設の利用度は「平野部」の方が「山間部」よりも高いと予想していた。なぜなら生涯学習に対する関心・需要は、上記分析結果に照らしてみれば、「平野部」の方が「山間部」より高いと判断されるからである。だが一部施設を除

き(中央公園グランド、若井総合会館)、「山間部」の利用度は「平野部」よりも高い結果となっている。こうした実態は、「生涯学習資源」の利用度は、生涯学習に対する関心の強さや、需要の大きさよりも、むしろその認知度と相関関係があるということを強く示唆するものであろう。「山間部」の回答者の68.4%が、20年以上の居住年数であることは、こうした事実を傍証するものであろう。

(15) フリーアンサー

本調査では、Q13の次にフリーアンサーによる記述欄を設けた。684の有効回答数中、フリーアンサー記述のあるものは92であった。概ね建設的な提言が多かったが、中には生涯学習とは直接関係のない些かピントのずれた記述も散見された。

記述内容は多岐にわたっているが、i) 生涯学習資源としての施設・設備の整備を求めるもの、ii) 講座・学級の内容の充実を求めるもの、iii) 施設・設備、講座・学級の運用のあり方に関するもの、iv) 各施設へのアクセスに関するもの、に類別される。i) に該当するものの中で最も多く見られた記述は、「図書館建設」の希望であった。次いで「温水プールの設置」を求めるものも多く、以下「文化施設(文化ホール、歴史資料館)」、「屋内・外活動施設(スポーツ施設)」の整備を望む記述も見られた。そして、施設・設備面に関する回答者の記述は、近隣自治体一特に「三郷町」における施設・設備の整備状況をかなり意識した内容になっているのが特徴的であった。巷間よく言われる「隣の芝生は青い」ということは、私的生活の範疇のみならず、公経営としての行政領域の中にも妥当する論理ではあるまいか。

またii)としては、時代の要請を反映してか、外国語、コンピュータ、油絵、親子で参加できる講座等の開設を希望する記述が見られた。iii)としては、施設使用料の問題、使用可能日時に関する要望、生涯学習の成果の発表機会の設置、希望者全員参加可能システムの開発(参加者抽選の撤発)、等の記述が目された。さらにiv)については、施設・設備に関する行政側からの情報の少なさと、その立地条件がアクセスを難しくしていることを指摘する記述が少なからず見られた。

III 今後の課題と提言

以上、「生涯学習に関する平群町民意調査実態調査」を基に若干の検討を行った。アンケート調査結果からも明らかなように、今後の生涯学習振興に当たって、行政は様々な対応を迫られることにならうと思われる。平群町にあっては、少なくとも以下4点を柱として、生涯学習行政を推進すべきことを提言したい。

すなわちそれは、第1に生涯学習資源に関する情報提供システムの工夫・整備・充実、第2に、明確な「地域生涯学習コンセプト」の策定と、地域住民の属性、とりわけ「性」、「年齢」に配慮した多様な生涯学習の推進、第3に生涯学習推進における「行政の役割・機能」の明確化、第4に広域行政圏内自治体との連携・協力の推進、である。先ず第1点目から見よう。以下順次私見を披歴する。

(1) 生涯学習情報提供システムの工夫・整備・充実

「山間部」では、アンケート結果からも明らかなように、依然として「生涯学習概念」が十分理解されていない傾向も見られた。それ故、行政による「生涯学習」の根幹に関わる啓発活動が、より一層徹底されることが必要とならう。また、地域によっては、平群町内のハード面の「生涯学習資源」の絶対量の不足を指摘する意見も見られた。確かに絶対量の不足が認められる施設・設備もある。だが、こうした住民意識の背景には、既存施設・設備の有効利用が十

分なされていない側面があるからではないかとも考えられる。したがって行政は、今後生涯学習を推進する上で既存施設・設備がどのような役割・機能を果たし得るのかを再点検し、「生涯学習資源」としての有効性を住民に再度アピールすることが肝要であろう。たとえば、当該既存施設の立地条件、スペース、設備等を勘案し、行政側から今後可能と考えられる具体的学習活動例を提示したり、現状の利用度と今後の利用可能枠、料金等に関する情報を積極的に提供するのにも一考であろう。

(2) 「地域生涯学習コンセプト」の策定と地域住民の属性に配慮した多様な生涯学習の推進
アンケート結果の分析からも明らかなように、地域住民の「生涯学習需要」には、性、年齢、居住地域、居住地条件によって差異が見られた。したがって行政は、こうした需要に対応した「生涯学習プログラム」を企画・立案・実施することが要請される。しかし、住民の「生涯学習需要」は、フリーアンサー部分の記述にも見られるように、あまりにも多岐にわたっている。そのためすべてに対応することは到底不可能であり、かえって行政効率の低下を招き、希少資源の有効利用を阻害する要因ともなりかねない。そのため行政は、先ず政策推進のガイドラインとなるべき「地域生涯学習コンセプト」を策定しなければならないのである。つまり地域振興に果たす生涯学習の役割・機能を明確にしなければならないのである。そしてそれを基準として「生涯学習プログラム」を企画・立案することが求められよう。

筆者は、アンケート調査の結果から、平群町の「生涯学習機会」に「新旧住民および新旧世代の出合・融和の場」としての意義をもたせるべきではないか、と考えている。したがって、こうした「コンセプト」に照らしてみれば、平群町の生涯学習は「町民としての新しい地域的連帯感を培い、世代間の融和」を図るものでなければならない。行政は、この点に十分配慮し、「性」、「年齢」といった属性に留意した多様なプログラムを企画・立案・実施すべきであろう。たとえば居住地域、居住地条件に関わりなく需要の高い学習項目や、若年層および高齢者層に興味・関心の高い学習項目の優先実施も効果的であろう。また、生涯学習人口のさらなる拡大に焦点を絞るならば、高齢者層よりも20・30歳代を中心とした若年層にターゲットを当てるべきである。こうした世代の取り込みの正否が生涯学習振興の鍵を握っていると言っても過言ではあるまい。

(3) 行政の役割・機能の明確化

生涯学習は、本源的には地域住民個人の私的興味・関心に関わるものである。したがって行政は、税金を使ってまでこうした私的需要を振興する理由を明確にすると共に、その役割・機能を自ら正しく把握することが大切であると思われる。その役割・機能は、主として①学習機会のマーケットへの働きかけと、②能力・学習成果の評価、からなるとされる。前者は、さらに需要の喚起・顕在化・誘導と、生涯学習の供給・他機関への働きかけ・他機関との連携・調整機能に、それぞれ類別される。需要の喚起・顕在化は、平群町の場合、その具体例は、筆者が(1)で提言した施設・設備の有効利用策がそれに該当すると言えよう。またアンケート結果を見ると、どうしても「学習需要」の多いものに注目しがちである。だが行政は、生涯学習を推進する上において、その施策選択は「需要」があるからなのか、「必要」があるからなのか、を明確に区別することが重要である。需要がなくても地域振興上、あるいは社会的必要性から不可欠と考えられるものは、積極的に需要を誘導しなければならない。たとえば平群町においては、「人権学習」に対する需要はあまり高くなかったが、こうした学習項目については、行政の「専門性」と「リーダーシップ」の発揮が特に必要とされる分野であろう。

さらに、行政一般の機能は、「規制」、「助成」、「事業経営」からなると理解される。平群町の生涯学習推進に当たって、どの機能に重点をおく戦略を採るのか、ということについて、

しっかりした方針を確立しておくことが肝要であろう。(2)で述べたように、被治者の「生涯学習需要」は飽くことなく多岐にわたり、行政自らの「事業経営」機能ですべてに対応することは到底不可能である。したがって行政は、地域住民自らの「生涯学習プログラム」に対する「助成」機能を中心に、他機関—たとえば民間の生涯学習機関へ働きかけや、連携・調整機能に重点を置き、民間活力をフルに利用すべきである。アンケート調査でも、「個人や家元が開いている教室」を学習機会とする回答がかなり多かったことや、若年層が、行政主催のものよりは町内・外の民間の「生涯学習プログラム」に参加している傾向が見られたことは、こうした施策選択の妥当性を支持するものであろう。そして、こうした施策でどうしてもカバーしきれない学習項目については、行政の「事業経営」機能が発揮されなければならない。さらに行政は、こうした施策推進のために、平群町内の民間の「人的・物的生涯学習資源」の総点検を実施し、そのマクロ的な量的・質的情報を早急に把握することが今後の重要課題となろう。

また後者、②能力・学習成果の評価は、生涯学習社会を創造する上で最も重要な施策の一つであるとされる。生涯学習を消費してそれですべてが終了するのではなく、さらにその学習成果が客観的に評価できるシステムを構築することが求められつつある。こうした要請に対応すると共に、地域住民に学習成果の評価の重要性を啓発することは、行政の重要な役割となると思われる。具体的には、行政自らが「資格認定制度」を導入したり、学校教育との連携、たとえば大学との共催による講座を通じての「単位認定制度」の導入を図るべきであろう。

(4) 広域行政圏内の自治体との連携・協力

平群町は、7町で構成される「王寺周辺広域市町村圏」（以下、域圏）に属している。域圏は都市化の進展に伴って生ずる地域整備や、種々のネットワーク形成を広域的な観点から計画的・効率的に図っていくことを目的として設置されたものである。またそれは、将来の「市政移行計画」の推進母体とも見なされることから、生涯学習を推進する上において、域圏内自治体相互間のハード、ソフト両面にわたる連携・協力は不可欠なものと考えられる。取り分け、施設・設備の新設に当たっては、個々の自治体レベルに留まらず、より広い域圏内のトータルに見た整備状況に照らして「生涯学習資源」の適正配置を図るべきである。個々の自治体ごとのハードを中心とした「生涯学習資源」の整備、いわゆる「ハコモノ行政」に重点を置く「生涯学習行政」は、見直すべき時期に差し掛かっているのではないだろうか。したがって行政は、より広範囲で「生涯学習プログラム」の推進を図り、希少資源の有効利用と「規模の経済性」の追求を迫られることになるのではなかろうか。だが同時に、行政は「アクセス問題」に直面しなければならず、いわゆる「効率性」と「民主性」という二律背反する課題に直面することになる。できる限り客観的な経済計算を通じて「効率性」と「民主性」の均衡点を見出す方法論の確立が今後の行政課題となろう。

Summary

In this study, I made a basic research in order to form a plan which was useful to construct "the regional life long learning systems" in Heguri-Cho.

And through this research, I also aimed at enlighten the inhabitants on the age of life long learning. Then it is said that the research is not only the administrative investigation but also plays a pluralistic function.

An object of investigation was 1,000 inhabitants who lived there as of February, 1994. I adopted a method of sending a questionnaire by mail. The items of the written inquiry were fourteen making an exception of face sheet. The rate of return was 68.4% as of March 16, 1994. I made use of the computer systems(-convex3420) in Nara University Computer Center.

Trough this investigation, I found three problems awaiting to be solved. The first one is that the school board of Heguri-Cho should check the amount of the institutions or the facilities for the life long learning and rational allocation plan of them. The second one is that it should construct "the concept of regional life long learning" and preperate for the various oppotunities which are consistent with the needs of inhabitants. The third one is that it should clear up a border of the responsibility for administrating the life long lerning systems. The last one is that it ought to cooperate with the school boards nearby in planning the life long learning systems.

付属資料（アンケートの設問と全体集計）

Q 1. 学校を出てからも生涯に渡って学び続ける必要があるという意見があります。貴方はこの意見についてどう思われますか。

その通りだと思う	560 人	81.9 %
そうは思わない	57 人	8.3 %
よく分からない	56 人	8.2 %
無 答	11 人	1.6 %

Q 2. 貴方はこの1年間に仕事・家庭生活・趣味・教養・スポーツ・社会問題等に関する学習を学校の授業以外である期間継続して行ったことがありますか。

あ る	386 人	56.4 %
な い	296 人	43.3 %
無 答	2 人	0.3 %

Q 3. (Q 2で「ない」と答えた人のみ) 貴方が学習されなかった理由は何ですか。1つだけ選んで下さい。次はQ 9へお進み下さい。

学習する必要がなかった	23 人	3.4 %
学習する時間がなかった	153 人	22.4 %
場所・機会が手近になかった	77 人	11.3 %
学習方法が分からなかった	15 人	2.2 %
そ の 他	17 人	2.5 %
非 該 当	6 人	0.9 %
無 答	393 人	57.5 %

Q 4. (Q 2で「ある」と答えた人のみ、以下Q 8まで) それほどのような内容でしたか。力を入れたものを3つ以内で選んで下さい。(会社等での研修も含みます)

	あ る	な い	非 該 当
美術・工芸・演芸・写真等	67 人 9.8 %	615 人 89.9 %	2 人 0.3 %
音楽 (含コーラス・詩吟・民謡)	56 人 8.2 %	627 人 91.7 %	1 人 0.1 %
舞踊 (ダンス)・茶道・華道等	59 人 8.6 %	625 人 91.4 %	0 人 0.0 %
映画 (知識と鑑賞)	14 人 2.0 %	670 人 98.0 %	0 人 0.0 %
書道 (含ペン習字・文章・手紙の書き方)	54 人 7.9 %	627 人 91.7 %	3 人 0.4 %
囲碁・将棋・チェス等	15 人 2.2 %	668 人 97.7 %	1 人 0.1 %
文学 (含俳句・短歌等)	26 人 3.8 %	658 人 96.2 %	0 人 0.0 %
歴史 (含郷土史)	20 人 2.9 %	664 人 97.1 %	0 人 0.0 %
外国語学習	32 人 4.7 %	652 人 95.3 %	0 人 0.0 %
時事問題・政治経済等	27 人 3.9 %	657 人 96.1 %	0 人 0.0 %

ボランティア活動（老人介護・手話等）	23人 3.4%	661人 96.6%	0人 0.0%
福祉・年金・保険・税金等の知識	33人 4.8%	650人 95.0%	1人 0.1%
衣服（含裁縫・編み物・着付け）	66人 9.6%	616人 90.1%	2人 0.3%
育児・子供の教育等	28人 4.1%	655人 95.8%	1人 0.1%
住宅に関する知識（含修理・室内装飾）	15人 2.2%	669人 97.8%	0人 0.0%
食品に関する知識（含栄養・料理）	37人 5.4%	647人 94.6%	0人 0.0%
ワープロ・パソコン・情報処理	77人 11.3%	606人 88.6%	1人 0.1%
簿記・経理等	12人 1.8%	672人 98.2%	0人 0.0%
屋内で行うスポーツ・レクリエーション活動	75人 11.0%	608人 88.9%	1人 0.1%
屋外で行うスポーツ・レクリエーション活動	58人 8.5%	626人 91.5%	0人 0.0%
健康（含保健・美容・成人病等の医療知識）	38人 5.6%	645人 94.3%	1人 0.1%
その他	42人 6.1%	641人 93.7%	1人 0.1%

Q5. それはどのような方法で学習されましたか。あてはまるもの全てに○印をつけて下さい。

	ある	ない	非該当
町の公民館主催の教室	74人 10.8%	609人 89.0%	1人 0.1%
県や隣接市町村主催の教室・講演会	51人 7.5%	631人 92.3%	2人 0.3%
新聞社・デパート等のカルチャーセンター	30人 4.4%	654人 95.6%	0人 0.0%
各種学校・専門学校・職業訓練学校	25人 3.7%	659人 96.3%	0人 0.0%
大学・研究所等の公開講座	16人 2.3%	668人 97.7%	0人 0.0%
企業内研修	71人 10.4%	612人 89.5%	1人 0.1%
個人や家元が開いている教室	113人 16.5%	571人 83.5%	0人 0.0%
テレビ・ラジオ等の通信講座	37人 5.4%	646人 94.4%	1人 0.1%
図書等を利用して自分1人で	86人 12.6%	598人 87.4%	0人 0.0%
民間のスポーツクラブ	72人 10.5%	612人 89.5%	0人 0.0%
町や県の開催するスポーツ教室	26人 3.8%	658人 96.2%	0人 0.0%
その他	80人 11.7%	604人 88.3%	0人 0.0%

Q 6. 貴方が学習に取り組まれた理由は何ですか。1つ選択して下さい。

他人との交流を深める	77人	11.3%
家族の絆を深める	3人	0.4%
学ぶ楽しさを味わう	51人	7.5%
知らなかったことをもっと知る	107人	15.6%
達成感を味わう	21人	3.1%
気分転換	41人	6.0%
その他	45人	6.6%
非該当	44人	6.4%
無答	295人	43.1%

Q 7. 学習では主に何を目的としましたか。1つ選択して下さい。

仕事や日常生活に役立てる	124人	18.1%
教養を高める	35人	5.1%
趣味を豊かにする	98人	14.3%
健康や体力を維持増進する	60人	8.8%
老化防止	29人	4.2%
その他	10人	1.5%
非該当	34人	5.0%
無答	294人	43.0%

Q 8. 学習をする場合、何か困ることはありましたか。あてはまるもの全てに○印をつけて下さい。

	ある	ない	非該当
仕事や家事が忙しく時間が取れない	155人 22.7%	519人 75.9%	10人 1.5%
精神的余裕がない	19人 2.8%	665人 97.2%	0人 0.0%
費用が高い	77人 11.3%	607人 88.7%	0人 0.0%
家計の余裕がない	20人 2.9%	662人 96.8%	2人 0.3%
周囲の目が気になってやりづらい	6人 0.9%	678人 99.1%	0人 0.0%
身近な所に学習できる場所や施設がない	98人 14.3%	580人 84.8%	6人 0.9%
学習場所や施設利用時間が自分の都合と合わない	91人 13.3%	589人 86.1%	4人 0.6%
指導者がいない	20人 2.9%	664人 97.1%	0人 0.0%
一緒にやる人がいない	15人 2.2%	669人 97.8%	0人 0.0%
学習方法が分からない	4人 0.6%	677人 99.0%	3人 0.4%
必要な情報が得られない	23人 3.4%	657人 96.1%	4人 0.6%
その他	9人 1.3%	674人 98.5%	1人 0.1%
特に困ることはない	111人 16.2%	572人 83.6%	1人 0.1%

※ここからは全員にお伺いします。

Q9. これから先、新しく学習したいと思っいることがありますか。（「ない」と答えた人はQ14へ進んで下さい）

ある	580人	84.8%
ない	90人	13.2%
無答	14人	2.0%

Q10. (Q9で「ある」と答えた人のみ、以下Q13まで) 新しく学びたい学習内容は何か。あてはまるもの全て選んで下さい。

	ある	ない	非該当
美術・工芸・演芸・写真・陶芸等	192人 28.1%	492人 71.9%	0人 0.0%
音楽（含コーラス・詩吟・民謡・邦楽）	91人 13.3%	593人 86.7%	0人 0.0%
舞踊（含ダンス）・茶道・華道等	78人 11.4%	606人 88.6%	0人 0.0%
映画（知識と鑑賞）	54人 7.9%	630人 92.1%	0人 0.0%
書道（含ペン習字・文章・手紙の書き方）	161人 23.5%	523人 76.5%	0人 0.0%
囲碁・将棋・チェス等	36人 5.3%	648人 94.7%	0人 0.0%
文学（含俳句・短歌等）	56人 8.2%	628人 91.8%	0人 0.0%
歴史（含郷土史・文化財・祭り）	92人 13.5%	592人 86.5%	0人 0.0%
外国語学習	105人 15.4%	579人 84.6%	0人 0.0%
時事問題・政治・経済・法律	70人 10.2%	614人 89.8%	0人 0.0%
ボランティア活動（老人介護・手話等）	83人 12.1%	601人 87.9%	0人 0.0%
福祉・年金・保険・税金等の知識	108人 15.8%	575人 84.1%	1人 0.1%
人権学習等	22人 3.2%	661人 96.6%	1人 0.1%
衣服（含裁縫・編み物・着付け）	106人 15.5%	578人 84.5%	0人 0.0%
育児・子供の教育等	41人 6.0%	643人 94.0%	0人 0.0%
住宅に関する知識（含修理・室内装飾）	65人 9.5%	618人 90.4%	1人 0.1%
食品に関する知識（含栄養・料理）	114人 16.7%	570人 83.3%	0人 0.0%
消費者問題等	20人 2.9%	664人 97.1%	0人 0.0%
ワープロ・パソコン・情報処理	154人 22.5%	530人 77.5%	0人 0.0%
簿記・経理等	39人 5.7%	645人 94.3%	0人 0.0%

地域の農作物についての栽培技術等	48人 7.0%	636人 93.0%	0人 0.0%
屋内で行うスポーツ・レクリエーション活動	100人 14.6%	584人 85.4%	0人 0.0%
屋外で行うスポーツ・レクリエーション活動	100人 14.6%	584人 85.4%	0人 0.0%
健康（含保健・美容・成人病等の医療知識）	109人 15.9%	574人 83.9%	1人 0.1%
その他	15人 2.2%	669人 97.8%	0人 0.0%

Q11. 学習を行うとして、どの程度までのものをお考えですか。

入門・初歩程度	53人	7.7%
入門・初歩よりやや程度が高い	218人	31.9%
かなり程度が高く専門家に近い	60人	8.8%
程度は問わない	239人	34.9%
非該当	14人	2.0%
無答	100人	14.6%

Q12-A. 貴方が学習に都合の良い曜日はいつですか。

日曜日	96人	14.0%
土曜日	132人	19.3%
平日	211人	30.8%
何曜日でも	71人	10.4%
分からない	55人	8.0%
非該当	20人	2.9%
無答	99人	14.5%

Q12-B. 貴方が学習に都合の良い時間はいつですか。

午前中	191人	27.9%
午後	181人	26.5%
夜	94人	13.7%
いつでも	53人	7.7%
分からない	40人	5.8%
非該当	20人	2.9%
無答	105人	15.4%

Q13-A. これから学習を進めていく上で平群町に望むのはどのようなことですか。

	ある	ない	非該当
図書室・図書館の拡充及び設置	338人 49.4%	343人 50.1%	3人 0.4%
文化ホール等催し物の開催できる施設	285人 41.7%	397人 58.0%	2人 0.3%
文化財や伝統文化を保存・閲覧できる資料館・博物館	124人 18.1%	558人 81.6%	2人 0.3%
テニスや野球等屋外で行うスポーツ施設の設置	100人 14.6%	582人 85.1%	2人 0.3%
エアロビクスや武道等屋内スポーツ施設の設置	159人 23.2%	522人 76.3%	3人 0.4%

Q13-B. これから学習を進めていく上で平群町に望むのはどのようなことですか。

	ある	ない	非該当
学習や講座を利用しやすい 時間帯に開いてほしい	201人 29.4%	478人 69.9%	5人 0.7%
もっと多彩な学級や講座の開催	222人 32.5%	460人 67.3%	2人 0.3%
資格の取れる講座の開催	150人 21.9%	532人 77.8%	2人 0.3%
学習の際の指導者の紹介	42人 6.1%	642人 93.9%	0人 0.0%
施設や講座等の情報提供（県内の情報も含めて）	230人 33.6%	453人 66.2%	1人 0.1%
講演会や研修会・見学会をもっと開催	161人 23.5%	520人 76.0%	3人 0.4%
その他の要望事項	92人 13.5%	591人 86.4%	1人 0.1%

Q14. 平群町には次のような施設があります。それぞれの施設について当てはまる所に○印をおつけ下さい。

1. 中央公民館

よく利用する	97人	14.2%
利用したことがある	340人	49.7%
知っているが利用したことはない	204人	29.8%
知らなかった	7人	1.0%
非該当	2人	0.3%
無答	34人	5.0%

2. 健民運動場

よく利用する	17人	2.5%
利用したことがある	324人	47.4%
知っているが利用したことはない	281人	41.1%
知らなかった	14人	2.0%
無答	48人	7.0%

3. 中央公園グラウンド

よく利用する	13人	1.9%
利用したことがある	91人	13.3%
知っているが利用したことはない	413人	60.4%
知らなかった	108人	15.8%
無答	59人	8.6%

4. テニスコート（梨本・若葉台・福貴・中央公園）

よく利用する	19人	2.8%
利用したことがある	70人	10.2%
知っているが利用したことはない	435人	63.6%
知らなかった	101人	14.8%
無答	59人	8.6%

5. 総合スポーツセンター（グラウンド・プール）

よく利用する	17人	2.5%
利用したことがある	183人	26.8%
知っているが利用したことはない	385人	56.3%
知らなかった	42人	6.1%
無 答	57人	8.3%

6. 老人福祉センター

よく利用する	14人	2.0%
利用したことがある	69人	10.1%
知っているが利用したことはない	499人	73.0%
知らなかった	51人	7.5%
非 該 当	1人	0.1%
無 答	50人	7.3%

7. ゲートボール場（梨本・中央公園）

よく利用する	0人	0.0%
利用したことがある	11人	1.6%
知っているが利用したことはない	422人	61.7%
知らなかった	186人	27.2%
無 答	65人	9.5%

8. 若井総合会館

よく利用する	19人	2.8%
利用したことがある	48人	7.0%
知っているが利用したことはない	303人	44.3%
知らなかった	249人	36.4%
無 答	65人	9.5%

9. 診 療 所

よく利用する	23人	3.4%
利用したことがある	247人	36.1%
知っているが利用したことはない	317人	46.3%
知らなかった	43人	6.3%
無 答	54人	7.9%

10. 農村環境改善センター（上庄）

よく利用する	8人	1.2%
利用したことがある	52人	7.6%
知っているが利用したことはない	168人	24.6%
知らなかった	394人	57.6%
無 答	62人	9.1%

11. 小中学校の運動場や体育館の開放

よく利用する	28人	4.1%
利用したことがある	142人	20.8%
知っているが利用したことはない	290人	42.4%
知らなかった	159人	23.2%
非 該 当	1人	0.1%
無 答	64人	9.4%

Q15. 貴方の性別

男	270 人	39.5 %
女	406 人	59.4 %
非該当	1 人	0.1 %
無答	7 人	1.0 %

Q16. 貴方の年齢

20歳代	89 人	13.0 %
30歳代	132 人	19.3 %
40歳代	152 人	22.2 %
50歳代	155 人	22.7 %
60歳代	149 人	21.8 %
無答	7 人	1.0 %

Q17. 貴方の現在どの地区にお住まいですか。また大字名も記入して下さい。

表①《東西南北区分》

東 部	174 人	25.4 %
西 部	138 人	20.2 %
南 部	172 人	25.1 %
北 部	183 人	26.8 %
無 答	17 人	2.5 %

表②《地区区分》

福 貴	9 人	1.3 %
若 葉 台	27 人	3.9 %
ローズタウン若葉台	9 人	1.3 %
福貴団地	4 人	0.6 %
初 香 台	26 人	3.8 %
新初香台	3 人	0.4 %
光ケ丘	8 人	1.2 %
梨 本	7 人	1.0 %
吉 新	26 人	3.8 %
三 里	20 人	2.9 %
御 陵 苑	6 人	0.9 %
下 垣 内	15 人	2.2 %
信 貴 山	5 人	0.7 %
福 貴 畑	27 人	3.9 %
久 安 畑	13 人	1.9 %
信 貴 畑	11 人	1.6 %
樺 原	12 人	1.8 %
越 木 塚	13 人	1.9 %
若 井	36 人	5.3 %
白 石 畑	3 人	0.4 %
平 等 寺	5 人	0.7 %
椿 井	15 人	2.2 %
西 宮	43 人	6.3 %
日立団地	5 人	0.7 %
春 日 丘	28 人	4.1 %
五 月 台	2 人	0.3 %

竜田川ネオポリス	14人	2.0%
竜田川団地	17人	2.5%
北信貴ヶ丘	23人	3.4%
鳴川	4人	0.6%
操原	14人	2.0%
緑ヶ丘	74人	10.8%
西向	2人	0.3%
上庄	6人	0.9%
信貴ホーム	1人	0.1%
上庄台	13人	1.9%
非該当	65人	9.5%
無答	22人	3.2%

表③《地理区分》

山間部	116人	17.0%
平野部	488人	71.3%
非該当	80人	11.7%

Q18. 貴方は平群町に居住された何年になりますか。

3年未満	34人	5.0%
3年以上5年未満	53人	7.7%
5年以上10年未満	81人	11.8%
10年以上20年未満	214人	31.3%
20年以上	293人	42.8%
無答	9人	1.3%

Q19. 配偶者はおられますか。

あ	524人	76.6%
な	142人	20.8%
無答	18人	2.6%

Q20. 同居しているお子さんはおられますか。おられる方は、末っ子のお子さんほどの年頃に当てはまりますか。

子供はいない	125人	18.3%
乳幼児	97人	14.2%
小学生	88人	12.9%
中学生	46人	6.7%
高校生	34人	5.0%
大学・大学院生	49人	7.2%
社会人	134人	19.6%
その他	16人	2.3%
非該当	1人	0.1%
無答	94人	13.7%

Q21. 貴方が現在一緒にお住まいのご家族は構成は次のどれに当たりますか。（従業員の同居等は含めません）

1人所帯	11人	1.6%
夫婦2人所帯	97人	14.2%
夫婦と子供	300人	43.9%
三世大家族	162人	23.7%
その他	92人	13.5%
無答	22人	3.2%

Q22. 貴方が平日（日曜・休業日以外の日）に自由に使える時間は、1週間平均すると1日大体どのくらいでしょうか。

1時間未満	70人	10.2%
1～2時間未満	176人	25.7%
2～3時間未満	156人	22.8%
3～4時間未満	102人	14.9%
4～5時間未満	59人	8.6%
5時間以上	97人	14.2%
無答	24人	3.5%

Q23. 貴方のお仕事（職業）で一番近いと思われるのはどれですか。

表①《自営業》

農林漁業	27人	3.9%
商工サービス業	24人	3.5%
自由業	10人	1.5%

表②《家族従事者》

農林漁業	18人	2.6%
商工サービス業・自由業	13人	1.9%

表③《勤め人》

管理職	50人	7.3%
専門技術職	19人	2.8%
事務・教育職	87人	12.7%
技術・労務職	58人	8.5%
販売・サービス職	51人	7.5%
その他	19人	2.8%

表④《その他》

学生	10人	1.5%
主婦（パート・内職）	70人	10.2%
主婦	150人	21.9%
その他	41人	6.0%
非該当	4人	0.1%
無答	33人	4.8%

Q24. 貴方の仕事場・勤務地はどこですか。

平群町	108人	15.8%
奈良県	80人	11.7%
大阪府	176人	25.7%
京都府	7人	1.0%
その他	7人	1.0%
非該当	10人	1.5%
無答	296人	43.3%

Q25. 休日

完全週休2日	156人	22.8%
隔週週休2日	58人	8.5%
月1回週休2日	31人	4.5%
週休1日半(土曜日半日)	13人	1.9%
週休1日	54人	7.9%
月2~3回定休	4人	0.6%
月1回定休	2人	0.3%
特定休日なし	55人	8.0%
非該当	13人	1.9%
無答	298人	43.6%